

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2393300047		
法人名	有限会社 はっぴい (おおしまユニット)		
事業所名	グループホームはっぴい		
所在地	蒲郡市三谷町伊与戸1-2		
自己評価作成日	令和1年12月15日	評価結果市町村受理日	令和2年1月31日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaisokensaku.nhiw.go.jp/22/index.php?action=kouhyou_detail_2019_022_kani=true&jiyosyoCd=2393300047-008PrefCd=22&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社第三者評価機構 愛知評価調査室
所在地	愛知県名古屋瑞穂区本願寺町2丁目74番地
訪問調査日	令和2年1月7日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

砥神(とがみ)山のふもとに位置し、少し歩けば三河湾が一望できる、山海共に恵まれた環境にあります。建物は三河の材木をふんだんに使った木造平屋建てで、食堂兼ホールは吹き抜けで天井が高く、窓も大きく明るく、ゆったりとした空間になっています。お祭り等の行事が盛んな地域で、それらに参加したり関連した催しを行い、利用者と共に楽しんでいます。季節行事以外にドライブ、買い物等へ出かけ気分転換を図り、生活の中では家事や入浴等を一緒に楽しめる様に支援しています。誕生日他、随時個別に希望を伺い、添えるよう対応しています。地域や家族とともに支え合いながら、毎日を安心して暮らして頂けるよう支援しています

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

昭和を想わせる瓦屋根の和テイストに誘われ入った玄関には菊や万両が出迎えてくれ、高い梁に支えられた共用空間はたつぷりとした広さがあり、居心地満点な事業所です。町内会から廻ってきた回覧板を利用者と届けにいたり、野菜や蜜柑のおすそ分けがあるといったごく普通の近所づきあいから、園児の遊戯・演舞披露の慰問、ボランティアによる抹茶会の隔月開催と多様なつきあいが重ねられ、地元に根差した暮らしが叶っています。また出遭いを求めて獅子舞会やBBQ等の行事回数を積むとともに、ホームページの開設や防犯カメラの設置、新しい電化製品の購入など、精力的な歩みが確認できます。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と <input type="radio"/> 2. 家族の2/3くらいと <input type="radio"/> 3. 家族の1/3くらいと <input type="radio"/> 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある <input type="radio"/> 2. 数日に1回程度ある <input type="radio"/> 3. たまにある <input type="radio"/> 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように <input type="radio"/> 2. 数日に1回程度 <input type="radio"/> 3. たまに <input type="radio"/> 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている <input type="radio"/> 2. 少しずつ増えている <input type="radio"/> 3. あまり増えていない <input type="radio"/> 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> 2. 職員の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 職員の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> 2. 家族等の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 家族等の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	玄関、職員トイレに理念のパネルを掲げ、職員が常時意識できるようにしています。月に1度の会議では、理念を唱和し共有を図っています	「じっくり・しっかり・ゆっくり」との理念は玄関先や職員トイレに掲げ、管理者が「平常心をもって」「利用者主体で」を常に言い続け、記録の書き方や利用者への関わりにおいて向上点を見つける都度指導しています。	理念を反映させた、個人目標やユニット目標を設け、またその達成度を確認していくといった工夫を以て、職員が「理念を実現している」という自覚が持ていけると、なおよいと思います。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域のお祭りへの参加、地域の方を招き青年団による伝統行事を披露し、豚汁をふるまう等交流に努めています。ボランティアを受け入れ、定期的に交流を持ち、近隣小中学校の資源回収にも協力しています	町内会から廻ってきた回覧板を次の家に利用者と届けにいたり、野菜や蜜柑のおすそ分けがあるなどのごく普通の近所づきあいから、園児の遊戯・演舞披露の慰問、ボランティアによる抹茶会の隔月開催と多様なつきあいが日々あります。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症について地域の人々に理解を深めて頂く為、運営推進会議の場で地域資源の活用方法等の支援方法を伝えて活かせる様に努めています		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を2カ月に1回実施。現状報告(施設行事、利用者の状況等等)を行い、委員の方から一人づつ意見をお伺いし、サービス向上に活かせる様にしています	行政、地域、家族とメンバーを揃え、2ヶ月に1回の運営推進会議がつつがなく継続されています。利用者の状況や入退所、行事の報告とともに、日頃の様子が直に伝わるようにとスライド上映もおこなっています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議委員として市の担当者の方に参加して頂き、情報交換等を行っており、協力関係を築いています。役所訪問時に情報提供して頂いたり、市のネットワークに登録し、情報を早急に得ています	市の窓口には月数回事務長が出向いており、また市役所長寿課、地域包括支援センターともに運営推進会議に出席くださっています。また愛知県認知症グループホーム連絡協議会東三河ブロックへの参加においても、日程調整に努めています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員会議で内部研修を実施、研修で学んだ身体拘束の知識を伝え拘束の無いケアに取り組んでいます。利用者の安全面を考え玄関の施錠はしているが、外出を望む方の希望には極力応える様にしています	マニュアルを整え、隔月で協議を位置付けており、研修会も年2回実施して身体拘束廃止に努めており、現在3要件に係る事例はありません。強いて課題を上げるならスピーチロックとして、「安全を考えることは悪いことではない」と尊重しつつ、改善を促しています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員会議の際に「虐待」についての内容を共有し、ケアの振り返りを行っています。職員間でお互いの言動に中止し、虐待を見逃さない体制作りに努めています		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	制度を必要とされる対象者が当事業所にはいない為、全スタッフが理解、把握出来ているかは不明ですが、研修で学んだ職員が、伝達講習を行っています。事務所に研修会の案内を掲示し、研修会への参加を促しています		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約締結前に重要事項を基に説明し、改定時には書面にて説明を行っています。事業所の方針、対応可能な範囲についての説明を行い、説明後は疑問や不安点を確認、同意された上で署名、捺印をして頂いています		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年に1回、家族会を開催、その中で家族から意見、要望をお聞きして検討し、運営に反映させています。スライドを使用して1年を振り返り、日頃の利用者の様子を発表しています。毎月写真入りお便りを、各家族に郵送しています	毎月30~40ショット掲載された写真入り便りを家族に発送していますが、面会は少なく悩みの種となっています。それでも、年1回の家族会には集まってくださり、またバーベキューといったお楽しみ行事の場で日頃考えていることや質問もあがっています。	「はっぴいだより」の写真は「楽しそう」といった大枠は伝わりますが、2~3センチの小さな枠ではよく判らない面もあります。数点トビックス的に大きくするといった工夫があると、なお良いと思います。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月1回、施設会議を実施し、利用者個々の状況確認を行っています。意見交換、職員からの提案等以外に、日頃から代表者や管理者は職員からの意見や提案を聞く機会を持ち、その都度検討し反映させています	近くの公民館を借りて個人面談を年2回おこない、人間関係の悩みはフォローし、処遇や購買希望は出来る限り実現に努めています。そのかいあってか、会議での職員発言は活発で、考えや想いが把握しやすくなっています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年2回6月、12月に役員面談を実施し、職員の個々の勤務状況及び人間関係の問題点を確認しています。問題点の把握改善をする事で職員が働きやすい環境づくりを徹底しています		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	月1回実施している施設会議において、毎回テーマを決め、勉強会を実施しています。研修会のお知らせは事務所に掲示し、各ユニットリーダーは、随時職員の技術指導を行っています		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	毎年、グループホーム協会の輪投げ大会に参加し、交流を図っています。管理者は、グループホーム協会の委員会に出席し意見交換を行い、自施設のサービス向上に努めています		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に家族同意の下、本人と面談をさせて頂き、これまでの生活状況や本人の全体像を把握しています。入所後は本人の様々な反応に注意し、安心して新しい生活になじんで頂けるような関係作りに努めています		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面談時に家族の不安、ご要望等をお聞きし、利用者との関係も大切にしながらサービスを提供し、信頼関係を築いていかれるよう努めています		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人や家族のご要望及び情報、今までの担当者からの情報と共に、その時必要な支援を見極め、それに応じたサービスを提供出来る様に努めます		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	暮らしの中で本人の「出来る事」「やりたい事」を入居者同士や職員と一緒にいき、共同生活を行う仲間としての関係を築いています。利用者の状況に応じ、状態に応じた対応調整をしています		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月家族に施設だよりやブログにより、行事予定、近況報告を伝えています。家族の面会時には、利用者の現在の状況を報告し、家族の意向を確認し、職員と共に利用者を支えていかれる関係づくりに努めています、		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	アセスメント、日常会話等からこれまでの生活の情報を把握し職員間で共有、家族の協力も得て外出等を行い、関係の継続に努めています。利用者さんの思い出を引き出すきっかけづくりの為、写真持参の依頼をしています	昨年5月位から始めた畑では農家出身の人はクワを持つ姿もどうに入って、思わず師と仰ぎたくなるほどです。また編み物が好きな利用者は「あんた、頭が寒いら〜」と、法人役員にも帽子を編んでくださっています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士が支えあう関係を築いていかれるよう、職員間で利用者個々の特性を把握し、状態に応じた対応支援に努めています		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用が終了しても、近隣の方が多い為近況がわかったり、家族に会う事が多く、必要時には相談に応じ、支援させて頂いています		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の生活の中で、入居者様の希望や思いをくみ取り、得た情報は職員間で共有し、利用者主体基本で検討しています	D-1焦点情報「わたしができること・できないことシート」、D-2焦点情報「わたしがわかること・わからないことシート」を作成することを業務に位置付け、管理者指南のもと、設問一つひとつに戸惑いながらも職員は意向把握の学習を積んでいます。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時に、本人、家族からこれまでの生活、状態、サービス利用状況の話を伺うと共に、利用していた事業所からも、情報の提供をしていただいています		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個々の状況は申し送り、PC入力し職員間で情報を共有し、いつでも確認することが出来るようにしています。周知が必要な事は事務所の申し送りノートに記入し、サインチェックを行っています		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎日、ケアプラン実施表をチェックし、月末には担当職員が評価し、ケアカンファレンス時に介護計画の見直しを図っています。本人、家族の要望、思いを中心に、多職種の意見を取り入れた介護計画を作成する様に努めている	「ケアプラン実施表」を通じて毎日の実践が確認され、月末には担当職員が評価するとともに、更新時のカンファレンスを以て、チームケアにつなげています。「評価表」には「到達度」「到達しない場合の理由」「今後の方針」が丁寧に綴られていることを確認しました。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の生活の様子や、変化、気づき、ケアを個別にPC入力を行い、職員間で情報の共有を図っています。会議時には情報を検討し意見交換を行い、介護計画の見直しを図っています		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人、家族の状況を考慮し対応する様にしています。本人にとって必要な支援や環境等を考え、医療機関の受診、ボランティアの受け入れ、利用、外出等、柔軟な対応を行っています		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	お茶、読み聞かせ等のボランティアの受け入れ、地域行事等、積極的に参加しています。消防と協力し防災訓練を行う等、安全な暮らしを提供できる様に取り組んでいます		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所時に主治医を家族と話し決めていきます。4W/1回、主治医の訪問診療があり、異常時には受診、連携を取っています。通院、他科受診については家族対応をお願いしているが、難しい場合は職員が付き添い支援し、結果を家族に報告しています	月1回の訪問診療をおこなう協力医に全員が変更しており、管理者、看護師(非常勤)が診療の場に立ち合っています。専門医の通院で家族が付添えない場合や、熱発などは職員が担当しており、結果は家族に電話で伝え、内容は介護記録に残しています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職員は常に入居者様の心身の状況を見極め、必要に応じて看護師に報告をし、状態に応じて病院への受診等を受けられる様に支援しています		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院をした際には面会に伺うと共に、病院関係者に状態を聞き、本人や家族が安心して治療を受ける事ができるよう努めています。病院とは定期的に連絡を取り、職員間で情報を共有しています		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化又終末期については契約時に家族と話し合いをしており、看取りはしない事を説明し、同意を得ています。医療機関と連携を図り、他施設への転居(移動)の際は本人と家族に不安のない様、情報提供をしっかりと行い理解をして頂いています	開設から6、7名をお見送りをした実績がありますが、「看取りはしない」としており、全員が老衰による自然死です。先日の利用者(101歳)の葬儀には法人役員、管理者が参列、孫から「いつもHPを見て安心してましたよ」と感謝の言葉を頂いています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急マニュアルを作成し、勉強会を行い職員に周知しています。事故発生時には職員会議等で事例検討を行い、見直しを図っています		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回、火災想定避難訓練を消防署員立ち合いの下、出勤職員、入居者様は全員参加して行っています。災害時の備蓄用品については、ローリングストック法を実施し、各居室には防災頭巾を設置しています	年2回の防災訓練では、水害や津波の心配のない立地なことから、夜間と日中の火災想定でそれぞれおこない、内1回消防署職員の立ち合いを得ています。訓練の体験機会は新人職員を優先するとともに、備蓄は3日備え、準備に余念がありません。	

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員全員が利用者の羞恥心、プライバシーに配慮した言葉掛けや対応が出来る様、心掛けています。毎月の会議で再確認すると共に、勉強会を開いて職員周知に努めています	「選ぶ機会を」との意識をもって、朝の飲料も「珈琲」「日本茶」「紅茶」の中から好みのもので、その日に飲みたいものを選んでもらっています。その日着用する服も「どちらがいいですか」と、決める手伝いをおこない、「しっかり(その人の自立)」を支えています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員が利用者、家族のように接し、寄り添い安心して頂く事で、希望や思いを表現したり、自分で決める事が出来るよう努めています		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1日のおおよその流れは決まっていますが、無理強いはしていません。本人の言葉、仕草、行動から状況を把握し、希望に添えるよう努めています		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	2か月に1回訪問美容で、カットと顔そりをしています。各居室には洗面台が設置しており、可能な方は自由に使われています。馴染みの美容院がある方は、送迎支援を行っています		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食器の洗い物や料理の材料の下ごしらえ等、利用者の出来る範囲で行って頂き、難しい事は職員と一緒にしています。食前には全員で嚙下体操を行い、時間に余裕があるときは、歌を歌っています	オープンキッチンで、匂いや湯気が五感をくすぐる環境のなか、利用者も皮むきなどを手伝い、また職員も「美味しいものを」と毎食の調理に励んでいます。七草粥や雛祭りちらし寿司といった行事食に尽力し、過去にははまちの解体ショーをやったこともあります。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスを工夫し、利用者にあった量や大きさ、硬さ等を調整し、個々に合った食事形態にて提供しています。利用者個々の状態に応じて、自助食器を使って頂いています		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	個々の状態に応じてケア用品を用い、ケア時には職員が付き添っています。夜間は義歯を外し、定期的に義歯、ケア用品の消毒を行い、歯科受診時にはアドバイスを頂き、ケアに役立てています		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄チェックシートを活用し、利用者の力や習慣にあった声掛け、対応を心掛けています。個々に適した衛生用品を勧め、利用者さんの心身の負担を減らすよう努めています	自分で便座に座ることができる人には「下着をおろす」「汚れを拭く」「あげる」までをお願いし、できる機会を奪わないよう、待つ介護を旨としています。介護度が進んでいる状況もあって、本人の苛立ちを招くまでは避けたく、手伝うことが増えてきています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	お茶は常時飲むことが出来るよう準備しています。朝食には乳製品を必ず提供し、水分や食物繊維を意識した献立を用いています。個々に応じた運動や歩行、マッサージ等を行い、予防に取り組んでいます		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入居者様の混乱が無い様に、おおまかな設定はありますが、状況やタイミングや希望時間を合わせる等の配慮をし、個々に沿った支援をしています。ゆず湯、菖蒲湯等を用意し、季節を感じて頂いています	重度化で2人介助が必要となると、その日の配置で実施できるかどうか検討が必要となり、本人も「怖い」と言うことから、シャワー浴となった人が2名いますが、週3日の入浴を実施しています。また菖蒲湯、柚子湯といった季節風呂も提供しています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	レクリエーションへの参加、散歩等、生活リズムを整えるように努めています。個々の状況に合わせてエアコンで室内温度を調整し、眠剤等は使用せず安心して気持ちよく安眠出来る様に支援しています		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の服薬内容を全員が確認出来る様に、ファイリングしています。薬は一包装して頂き名前、日付を印字、朝食後薬には赤ラインの印をつけています。服薬時には印字を読み上げ、利用者と一緒に確認しています。薬変更時には経過観察を行っています		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食事の準備、配膳、下膳等を、利用者の出来る範囲で職員と一緒に頂いています。毎月の誕生会や、ボランティア(お抹茶会、読み聞かせ等)を定期的に招き、楽しい時間を過ごせる様に支援しています		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩は、利用者の状態に応じて福祉用具等を利用し、回覧板は利用者と一緒に届けています。利用者の希望を伺い、家族とも相談、協力を得て、希望に添える支援を行っています	「週3、4回」「週1、2回」と、散歩はADLの差からユニットで頻度に違いがでてますが、天気のいい日はできるだけ出るようにしています。春と秋の花見と紅葉狩りは恒例となり、また初詣は皆でお賽銭を握り締めて1年の無事を祈っています。	

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者の小遣いは、基本的には施設預かりですが、自己管理が可能の方、手持ちのお金がないと不安を感じる方は、職員把握の下、少額のお金を自己管理されています。希望に応じてお小遣いの中で、欲しい物を購入して頂いています		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望時には事務所の電話を使用して頂き、家族へ確認の上取次ぎを行っています。手紙については家族へ報告の上、本人へ渡しています。やり取りを希望をされる方には必要品を準備し、ポストへ投函させて頂いています		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間は広くとっており、写真等を飾っています。窓は大きく、光を十分取り入れる事が出来明るく、木造建築の平屋であるが天井が高く吹き抜けになっている事もあり、ゆったりとしています	季節の生花は品よく置かれていて、「より家庭らしく」への配慮が覗えます。また夜勤者と日勤の早番が換気や掃除を励行し、また吹き抜けの空間は空気の流れが円滑で臭いもなく、清潔を保っているおかげで平成26年から感染症の罹患者はいません。	画鋲の是非とピクチャーレールの導入検討が進むことを期待します。
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールにはソファと、大テーブル、人数分の椅子が設置してあり、好きな時に出来る塗り絵やレクリエーション等で使用するカラオケ機器を用意しています。利用者さんが自由に過ごす事が出来るよう、ゆったりとした共有空間になっています		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者さんの安全面を考慮した上で、自宅で使用し慣れ親しんだ家具等を持って来て頂き、生活の場を作っています。家族の写真やプレゼントされた花等を飾ったりし居心地良く過ごせる様に調整をしています	居室には洗面台、クローゼット、エアコンなどが予め備わっていますが、カーテンレールとカーテンは持ち込みをお願いしています。チェストやテレビなど使い馴染んだものが見られる一方で、冷蔵庫はもう利用できなくなり、飾り物になっている部屋もあります。	写真をたくさん撮ってくださっていますので、各居室にその人のアルバムがあると、家族とのコミュニケーションに役立つと思います。
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	施設内はバリアフリーで扉は全て引き戸になっています。利用者が安心して移動出来る様、廊下の壁には手すりがあり、車いすやシルバーカーがすれ違いや移動がしやすい様に幅をとっています。廊下、トイレには人感センサーを設置しています		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2393300047		
法人名	有限会社 はっぴい		
事業所名	グループホームはっぴい(たけしまユニット)		
所在地	蒲郡市三谷町伊与戸1-2		
自己評価作成日	令和1年12月15日	評価結果市町村受理日	令和2年1月31日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaisokensaku.nhiw.go.jp/22/index.php?action=kouhyou_detail_2019_022_kani=true&JiyosyoCd=2393300047-008PrefCd=22&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社第三者評価機構 愛知評価調査室
所在地	愛知県名古屋瑞穂区本願寺町2丁目74番地
訪問調査日	令和2年1月7日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

砥神(とがみ)山のふもとに位置し、少し歩けば三河湾が一望できる、山海共に恵まれた環境にあります。建物は三河の材木をふんだんに使った木造平屋建てで、食堂兼ホールは吹き抜けで天井が高く、窓も大きく明るく、ゆったりとした空間になっています。お祭り等の行事が盛んな地域で、それらに参加したり関連した催しを行い、利用者と共に楽しんでいます。季節行事以外にドライブ、買い物等へ出かけ気分転換を図り、生活の中では家事や入浴等を一緒に楽しめる様に支援しています。誕生日他、随時個別に希望を伺い、添えるよう対応しています。地域や家族とともに支え合いながら、毎日を安心して暮らして頂けるよう支援しています

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

昭和を想わせる瓦屋根の和テイストに誘われ入った玄関には菊や万両が出迎えてくれ、高い梁に支えられた共用空間はたつぷりとした広さがあり、居心地満点な事業所です。町内会から廻ってきた回覧板を利用者と届けにいたり、野菜や蜜柑のおすそ分けがあるといったごく普通の近所づきあいから、園児の遊戯・演舞披露の慰問、ボランティアによる抹茶会の隔月開催と多様なつきあいが重ねられ、地元に根差した暮らしが叶っています。また出遭いを求めて獅子舞会やBBQ等の行事回数を積むとともに、ホームページの開設や防犯カメラの設置、新しい電化製品の購入など、精力的な歩みが確認できます。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と <input type="radio"/> 2. 家族の2/3くらいと <input type="radio"/> 3. 家族の1/3くらいと <input type="radio"/> 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある <input type="radio"/> 2. 数日に1回程度ある <input type="radio"/> 3. たまにある <input type="radio"/> 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように <input type="radio"/> 2. 数日に1回程度 <input type="radio"/> 3. たまに <input type="radio"/> 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている <input type="radio"/> 2. 少しずつ増えている <input type="radio"/> 3. あまり増えていない <input type="radio"/> 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> 2. 職員の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 職員の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> 2. 家族等の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 家族等の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	玄関、職員トイレに理念のパネルを掲げ、職員が常時意識できるようにしています。月に1度の会議では、理念を唱和し共有を図っています		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	地域のお祭りへの参加、地域の方を招き青年団による伝統行事を披露し、豚汁をふるまう等交流に努めています。ボランティアを受け入れ、定期的に交流を持ち、近隣小中学校の資源回収にも協力しています		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症について地域の人々に理解を深めて頂く為、運営推進会議の場で地域資源の活用方法等の支援方法を伝えて活かせる様に努めています		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を2カ月に1回実施。現状報告(施設行事、利用者の状況等等)を行い、委員の方から一人ずつ意見をお伺いし、サービス向上に活かせる様にしています		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは頃頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議委員として市の担当者の方に参加して頂き、情報交換等を行っており、協力関係を築いています。役所訪問時に情報提供して頂いたり、市のネットワークに登録し、情報を早急に得ています		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員会議で内部研修を実施、研修で学んだ身体拘束の知識を伝え拘束の無いケアに取り組んでいます。利用者の安全面を考え玄関の施錠はしているが、外出を望む方の希望には極力応える様にしています		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員会議の際に「虐待」についての内容を共有し、ケアの振り返りを行っています。職員間でお互いの言動に中止し、虐待を見逃さない体制作りに努めています		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	制度を必要とされる対象者が当事業所にはいない為、全スタッフが理解、把握出来ているかは不明ですが、研修で学んだ職員が、伝達講習を行っています。事務所に研修会の案内を掲示し、研修会への参加を促しています		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約締結前に重要事項を基に説明し、改定時には書面にて説明を行っています。事業所の方針、対応可能な範囲についての説明を行い、説明後は疑問や不安点を確認、同意された上で署名、捺印をして頂いています		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年に1回、家族会を開催、その中で家族から意見、要望をお聞きして検討し、運営に反映させています。スライドを使用して1年を振り返り、日頃の利用者の様子を発表しています。毎月写真入りお便りを、各家族に郵送しています		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月1回、施設会議を実施し、利用者個々の状況確認を行っています。意見交換、職員からの提案等以外に、日頃から代表者や管理者は職員からの意見や提案を聞く機会を持ち、その都度検討し反映させています		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年2回6月、12月に役員面談を実施し、職員個々の勤務状況及び人間関係の問題点を確認しています。問題点の把握改善をする事で職員が働きやすい環境づくりを徹底しています		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	月1回実施している施設会議において、毎回テーマを決め、勉強会を実施しています。研修会のお知らせは事務所に掲示し、各ユニットリーダーは、随時職員の技術指導を行っています		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	毎年、グループホーム協会の輪投げ大会に参加し、交流を図っています。管理者は、グループホーム協会の委員会に出席し意見交換を行い、自施設のサービス向上に努めています		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に家族同意の下、本人と面談をさせて頂き、これまでの生活状況や本人の全体像を把握しています。入所後は本人の様々な反応に注意し、安心して新しい生活になじんで頂けるような関係作りに努めています		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面談時に家族の不安、ご要望等をお聞きし、利用者との関係も大切にしながらサービスを提供し、信頼関係を築いていかれるよう努めています		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人や家族のご要望及び情報、今までの担当者からの情報と共に、その時必要な支援を見極め、それに応じたサービスを提供出来る様に努めます		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	暮らしの中で本人の「出来る事」「やりたい事」を入居者同士や職員と一緒にやり、共同生活を行う仲間としての関係を築いています。利用者の状況に応じ、状態に応じた対応調整をしています		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月家族に施設だよりやブログにより、行事予定、近況報告を伝えています。家族の面会時には、利用者の現在の状況を報告し、家族の意向を確認し、職員と共に利用者を支えていかれる関係づくりに努めています、		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	アセスメント、日常会話等からこれまでの生活の情報を把握し職員間で共有、家族の協力も得て外出等を行い、関係の継続に努めています。利用者さんの思い出を引き出すきっかけづくりの為、写真持参の依頼をしています		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が同士の関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士が支えあう関係を築いていかれるよう、職員間で利用者個々の特性を把握し、状態に応じた対応支援に努めています		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用が終了しても、近隣の方が多い為近況がわかったり、家族に会う事が多く、必要時には相談に応じ、支援させて頂いています		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の生活の中で、入居者様の希望や思いをくみ取り、得た情報は職員間で共有し、利用者主体基本で検討しています		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時に、本人、家族からこれまでの生活、状態、サービス利用状況の話を伺うと共に、利用していた事業所からも、情報の提供をしていただいています		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個々の状況は申し送り、PC入力し職員間で情報を共有し、いつでも確認することが出来るようにしています。周知が必要な事は事務所の申し送りノートに記入し、サインチェックを行っています		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎日、ケアプラン実施表をチェックし、月末には担当職員が評価し、ケアカンファレンス時に介護計画の見直しを図っています。本人、家族の要望、思いを中心に、多職種の意見を取り入れた介護計画を作成する様に努めている		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の生活の様子や、変化、気づき、ケアを個別にPC入力を行い、職員間で情報の共有を図っています。会議時には情報を検討し意見交換を行い、介護計画の見直しを図っています		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人、家族の状況を考慮し対応する様にしています。本人にとって必要な支援や環境等を考え、医療機関の受診、ボランティアの受け入れ、利用、外出等、柔軟な対応を行っています		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	お茶、読み聞かせ等のボランティアの受け入れ、地域行事等、積極的に参加しています。消防と協力し防災訓練を行う等、安全な暮らしを提供できる様に取り組んでいます		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所時に主治医を家族と話し合って決めていきます。4W/1回、主治医の訪問診療があり、異常時には受診、連携を取っています。通院、他科受診については家族対応をお願いしているが、難しい場合は職員が付き添い支援し、結果を家族に報告しています		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職員は常に入居者様の心身の状況を見極め、必要に応じて看護師に報告をし、状態に応じて病院への受診等を受けられる様に支援しています		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院をした際には面会に伺うと共に、病院関係者に状態を聞き、本人や家族が安心して治療を受ける事ができるよう努めています。病院とは定期的に連絡を取り、職員間で情報を共有しています		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化又終末期については契約時に家族と話し合いをしており、看取りはしない事を説明し、同意を得ています。医療機関と連携を図り、他施設への転居(移動)の際は本人と家族に不安のない様、情報提供をしっかりと行い理解をして頂いています		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急マニュアルを作成し、勉強会を行い職員に周知しています。事故発生時には職員会議等で事例検討を行い、見直しを図っています		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回、火災想定避難訓練を消防署員立ち合いの下、出勤職員、入居者様は全員参加して行っています。災害時の備蓄用品については、ローリングストック法を実施し、各居室には防災頭巾を設置しています		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員全員が利用者の羞恥心、プライバシーに配慮した言葉掛けや対応が出来る様、心掛けています。毎月の会議で再確認すると共に、勉強会を開いて職員周知に努めています		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員が利用者へ、家族のように接し、寄り添い安心して頂く事で、希望や思いを表現したり、自分で決める事が出来るよう努めています		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1日のおおよその流れは決まっていますが、無理強いはいしません。本人の言葉、仕草、行動から状況を把握し、希望に添えるよう努めています		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	2か月に1回訪問美容で、カットと顔そりをしています。各居室には洗面台が設置しており、可能な方は自由に使われています。馴染みの美容院がある方は、送迎支援を行っています		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食器の洗い物や料理の材料の下ごしらえ等、利用者の出来る範囲で行って頂き、難しい事は職員と一緒にしています。食前には全員で嚙下体操を行い、時間に余裕があるときは、歌を歌っています		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスを工夫し、利用者にあった量や大きさ、硬さ等を調整し、個々に合った食事形態にて提供しています。利用者個々の状態に応じて、自助食器を使って頂いています		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	個々の状態に応じてケア用品を用い、ケア時には職員が付き添っています。夜間は義歯を外し、定期的に義歯、ケア用品の消毒を行い、歯科受診時にはアドバイスを頂き、ケアに役立っています		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄チェックシートを活用し、利用者の力や習慣にあった声掛け、対応を心掛けています。個々に適した衛生用品を勧め、利用者さんの心身の負担を減らすよう努めています		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	お茶は常時飲むことが出来るよう準備しています。朝食には乳製品を必ず提供し、水分や食物繊維を意識した献立を用いています。個々に応じた運動や歩行、マッサージ等を行い、予防に取り組んでいます		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入居者様の混乱が無い様に、おおまかな設定はありますが、状況やタイミングや希望時間を合わせる等の配慮をし、個々に沿った支援をしています。ゆず湯、菖蒲湯等を用意し、季節を感じて頂いています		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	レクリエーションへの参加、散歩等、生活リズムを整えるように努めています。個々の状況に合わせてエアコンで室内温度を調整し、眠剤等は使用せず安心して気持ちよく安眠出来る様に支援しています		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の服薬内容を全員が確認出来る様に、ファイリングしています。薬は一包化して頂き名前、日付を印字、朝食後薬には赤ラインの印をつけています。服薬時には印字を読み上げ、利用者と一緒に確認しています。薬変更時には経過観察を行っています		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食事の準備、配膳、下膳等を、利用者の出来る範囲で職員と一緒にさせて頂いています。毎月の誕生会や、ボランティア(お抹茶会、読み聞かせ等)を定期的に招き、楽しい時間を過ごせる様に支援しています		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩は、利用者の状態に応じて福祉用具等を利用し、回覧板は利用者と一緒に届けています。利用者の希望を伺い、家族とも相談、協力を得て、希望に添える支援を行っています		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者の小遣いは、基本的には施設預かりですが、自己管理が可能な方、手持ちのお金がないと不安を感じる方は、職員把握の下、少額のお金を自己管理されています。希望に応じてお小遣いの中で、欲しい物を購入して頂いています		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望時には事務所の電話を使用して頂き、家族へ確認の上取次ぎを行っています。手紙については家族へ報告の上、本人へ渡しています。やり取りを希望をされる方には必要品を準備し、ポストへ投函させて頂いています		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間は広くとっており、写真等を飾っています。窓は大きく、光を十分取り入れる事が出来る明るく、木造建築の平屋であるが天井が高く吹き抜けになっている事もあり、ゆったりとしています		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールにはソファと、大テーブル、人数分の椅子が設置してあり、好きな時に出来る塗り絵やレクリエーション等で使用するカラオケ機器を用意しています。利用者さんが自由に過ごす事が出来るよう、ゆったりとした共有空間になっています		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者さんの安全面を考慮した上で、自宅で使用し慣れ親しんだ家具等を持って来て頂き、生活の場を作っています。家族の写真やプレゼントされた花等を飾ったりし居心地良く過ごせる様に調整をしています		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	施設内はバリアフリーで扉は全て引き戸になっています。利用者が安心して移動出来る様、廊下の壁には手すりがあり、車いすやシルバーカーがすれ違いや移動がしやすい様に幅をとっています。廊下、トイレには人感センサーを設置しています		